

小松島出身のピアニスト、山本貴子さん(54)は徳島市万代町5丁目3月8日、ハンガリーからの帰国20周年記念リサイタルを徳島市のあわぎんホールで開く。武蔵野音楽大を卒業後、ハンガリーに留学し10年余り研さんを積んだ山本さん。帰国後は県内外の学校で300回近く公演したのをはじめ、リストやバルトークらハンガリー出身作曲家の曲を中心に演奏するコンサートを定期的に開いてきた。節目の独奏会を前に、思いを聞いた。

山本貴子さん ピアノ独奏会

山本さんが首都ブダペストにある国立リスト音楽院での留学を終えて帰国したのは2005年。恩師センプレーニさんからの「音楽を通じて日本とハンガリーを結ぶ架け橋になるように」との言葉を胸に、徳島で再出発した。

25年までにハンガリティックコンサートを題した自主公演を、県内で22回開催した。23回目となる今回の題名は「音の瞬きと悠久の時を超えて」。

山本さんは「星や月の輝きのように、どんな小さな音も、どんな繊細な音も、ホールに響かせたい」と意気込む。

ベートーベンの「月光」

ハンガリーから帰国20周年

で幕開け。リストはベートーベンの孫弟子に当たる。瞑想的な第1楽章やリストが「二つの深淵の間に咲く花」と評した第2楽章など、美しい音色を響かせる。バルトークの「ハエの日記から」は命の大切さを伝える曲。自然や小さな生き物に強く引かれた作曲家の思いを美しく奏でる。「短2度長7度」は、不協和音を組み合わせて創り上げられた曲で、神秘的で詩的な響きがある。

後半のヤママはリストの「巡礼の年 第1年 スイス」。愛に満ちた静かで幸

「これまで出会った全ての人に感謝を込めたコンサートにしたい」と話す山本貴子さん。小松島市の小松島やまなみ珈琲店



トを続けてきた。生演奏を聴いてもらうことで、音楽の魅力を発信できていると実感する。途中にはハンガリー時代の思い出もたくさんしゃべっている。

記念公演には、もう一つの思い入れがある。1年前に89歳で急逝した吉森章夫さんへの感謝の気持ちだ。県内の合唱指導の第一人者として知られた吉森さんは高校時代からの師で、体調を崩し音楽を辞めようと思つた時にも励ましてくれた。朗らかな性格で、帰国後も一貫して音楽の楽しさを論じてくれたという。

「吉森先生をはじめ、帰国後の20年間、たくさんの出会いがあった。全ての方々への感謝を込めたコンサートにしたい。聞きに来てくれた人の心が少しでも浄化されれば」と笑顔で語った。(柏木康浩)

来月8日 あわぎんホール

リサイタルは午後2時から。一般1500円(当日500円増)、小中高生千円。問い合わせは山本さん、電話0888(6887)2863。

「吉森先生への感謝を込め」